

地域と連携した津波防災 まち歩きマップの電子化と防災情報共有

ホームページの



QRコードです！

上田啓瑚・福山めぐみ・西原悠人・小山真人
(静岡大学地域創造学環)
鈴木雄介 (伊豆半島ジオパーク推進協議会)
仲田慶枝 (西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会)

津波防災まち歩きの様子



①はじめに

西伊豆町では、住民がグループを組んで地域の危険箇所や防災に役立つ箇所を把握し、地図上に記録する「津波防災まち歩き」を実施してきた。しかし、多くの参加者の情報を1枚の紙の地図に集約する作業は多大な労力を要する上、その管理と更新は容易でなかった。

そこで私たちは、上記の防災情報地図を電子化し、誰もがスマートフォンを用いて容易に集約・閲覧・更新できるWeb上の電子地図システムを構築した上で、その実証実験と改良を重ね、一定の成果を得たので報告する。

②方法と対象

国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）の提供するWebシステム「eコミマップ」を使用し、防災情報を集約するための電子地図を作成した（図1）。これを用いて、静岡県立松崎高等学校の生徒7名（2019年9月）と仁科地区の地域住民11名（2019年11月）、田子地区の地域住民4名（2020年2月）を対象に、西伊豆町の仁科地区および田子地区内で津波防災まち歩きをおよび意見交換を実施した。

まず最初に電子地図の使用方法を説明した後、津波防災まち歩きを実施し、**災害時において危険と思われる箇所や、役立つと思われるものを発見した際には、それらを撮影し、その場で電子地図への登録作業を行った。**ただし、田子地区については実施日が雨天だったため、室内で登録作業のみを体験してもらった。その後、登録結果を電子地図上で確認した上で、意見交換および質問紙調査を実施した。



図1：eコミマップを用いた防災情報共有のための電子地図

③結果

(1)質問紙調査

両回とも参加者全員から回答を得た。使用方法については、高校生の多くは理解できたとする一方で、スマホの使用に不慣れな高齢者が参加した地域住民からは「あまり分からなかった」や「やや分かりにくい」という意見が出された（図2）。使用感については、高校生の多くは使いやすいと感じているが、地域住民の意見は分かれた（図3）。自ら使用できると思うかについては、高校生及び地域住民の多くが「思う」、「やや思う」と回答した一方で、「あまり思わない」と回答した地域住民がいた（図4）。

(2)自由記述・意見交換

高校生からは「現在地を表示する方法が分かりにくい」、「登録時に指定する項目の種類がもっとあった方がよい」などの意見が出た。また、地域住民からは「災害発生時の避難所の情報や通行止めの情報をリアルタイムに入れられるようにするとよい」、「時刻や簡単なコメントが入れられるとよい」などの改善を要望する意見や、「写真で登録できるのが分かりやすく良い」、「すぐに情報が登録でき、自分の撮った写真が載るのが楽しい」などの肯定的な感想も出された。

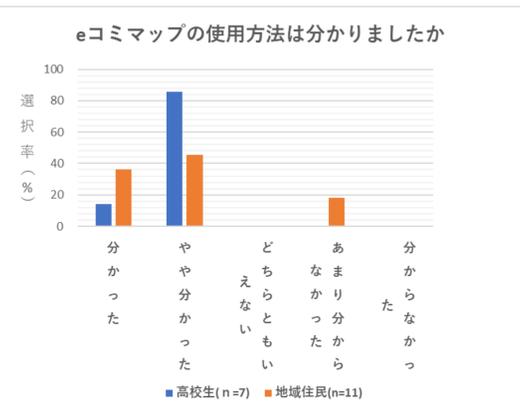


図2

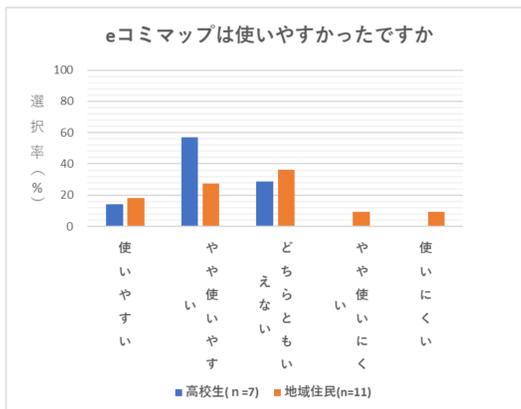


図3

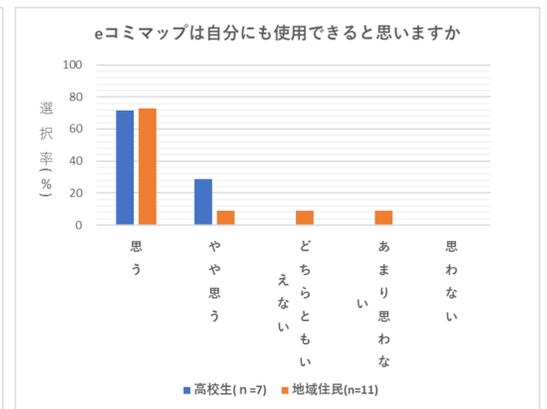


図4

④考察・今後の課題

操作や操作方法の説明に課題があることが分かった一方で、自ら使用可能と考える人も一定数存在し、高齢者にも扱えそうなシステムであることが分かった。より容易に使用可能とするためのシステムの変更・更新を図る必要がある。今後は、地区の区長や防災委員、ボランティア関係者等に協力を得ながら実践を重ね、有用性や利便性の周知につとめたい。そして、将来的には使用に慣れた住民が日ごろから地域の情報を入力し、災害時には即座に情報を入力することで、防災情報を迅速に共有できるようにしたいと考える。

